



Gakugei 東京学芸大学
Tokyo Gakugei University

日本語政策論

第8回

第2单元 歴史から日本語教育の論点争点を考える④
植民地への「言語政策」から現在を捉える②

コメントスクリーンのようなもおねがいします。

活動1

「同化（文化侵略）」か「交流（国際交流）」か？

日本語教育は、植民地同化政策の前衛だったのか、
それとも、民族融和と交流の前衛だったのか？

みんなの感想から

思った以上に先生が優しかった

当初予想していた強制的な空気が見られ
なかったのは意外だった

同化政策を進める最前線と言うよりは
「普通の先生」という感じだった

みんなの感想から

出てきた先生は優しかったが、同化政策
を推進しているわけなので、威圧的に振
る舞うのは逆効果なのだろう。

暴力的抑圧的に振る舞うと「学校に行き
たくなくなる」わけで、そうすると「同
化政策」は失敗に終わるため、やさしく
振る舞っていたのではないだろうか。

Q1

「授業料」に出てきた先生の「やさしさ」はホンモノ
だろうか？

Q2

当時の先生は、自分たちが「植民地支配に協力する」
存在であることにどれだけ自覚的だったのだろうか

論点

政策と現場の間で
教師は何を捉え、どのように
実践を行うのだろうか？

活動1

栄達（寿栄）の父が出稼ぎから帰らず、頼りもなく、祖母も体調が悪くなって授業料が払えなくて学校に行かなくなってしまった——という場面から

活動2

「同化」か「交流」か？

日本語教育は、植民地同化政策の前衛だったのか、それとも、民族融和と交流の前衛だったのか？

Teamsに、3つの資料から当時の植民地で行われた教育をあなたはどうか考えるか？

まず、3つの資料を見ます。

その後、考えを「返信」のかたちでつなげていきましょう。

当時の政策文書から考える

家庭は、言語生活の温床である。しかるに、朝鮮人の家庭は、いまだ国語の常用をみるに至っていない。

この事が、いかに朝鮮人に対する国語教育の発達を妨げているかは、思半ばにすぎるものがある。かつて8歳以上と定められていた児童の就学年齢は満6歳に引き下げられた。これは教育の普及と民度の向上の結果であるが、新入学児童はほとんど国語を解しないで、依然として、学校入学が国語生活への出発を意味している状態である。しかし、児童の国語学習は昨日に倍していよいよ真剣を加え、教師もまた、伝統の直接法を守って、教授用語にはもっぱら国語を用い、献身的な努力を続けている。

ここに特に記すべきは、内地人訓導にして一学年を担当する者の数がようやく多くなってきた事であろう。朝鮮語を解しない内地人訓導が一学年を担当することは、かつては夢にも考えられなかったことであるが、昭和14年6月の調べでは、3,822名の一年担任者のうち、内地人訓導は実に475名の多数に上っている。

これは、とくに音声言語を重んずべき朝鮮人に対する国語教育にとって、喜んで余りある事実で、支那事変以来とみに活発となってきた、皇国臣民の自覚と官民一体となり総力を挙げていそしんでいる国語普及運動の徹底と相まって、朝鮮における国語教育が飛躍的の発展を遂げ、内鮮一体の理想を実現するのも、決して遠い日のことではあるまい。

森田悟郎（朝鮮総督府学務局）（1942）「朝鮮における国語教育」『国語文化講座第6巻 国語進出編』（朝日新聞社）

資料B

当時の人たちの記憶の資料から考える

①日本時代は日本語を喋らないと罰はある。罰はよくあったね。日本式で座る，手を頭にのせて。それから立たせる。掃除，ゲンコツ。

(1923年生まれ，旧南洋群島サイパン公学校，女性)

②こわい先生ばかりでみんなこわい目に遭った。日本語使わないと殴られた。家でも使わなければならない。あるときお母さん，学校に呼び出しがあって，どうして家で日本語使わないと言ってビンタされた。

(1929年生まれ，旧南洋群島サイパン公学校，女性)

③わたしの記憶では，すべての先生がそのように厳しく体罰をしたのではなくて，個別的にそういう体罰を行ったのだらうと思います。その当時，日本人の先生たちは学生に対して要求が厳しくても，もし，間違ったら训斥をして，場合によっては顔を打ったりしていたのです。

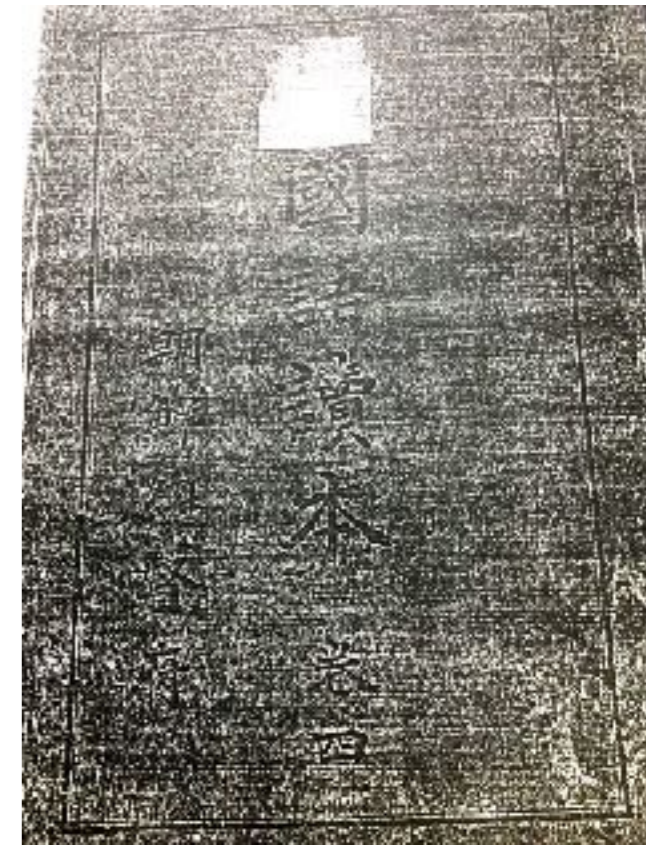
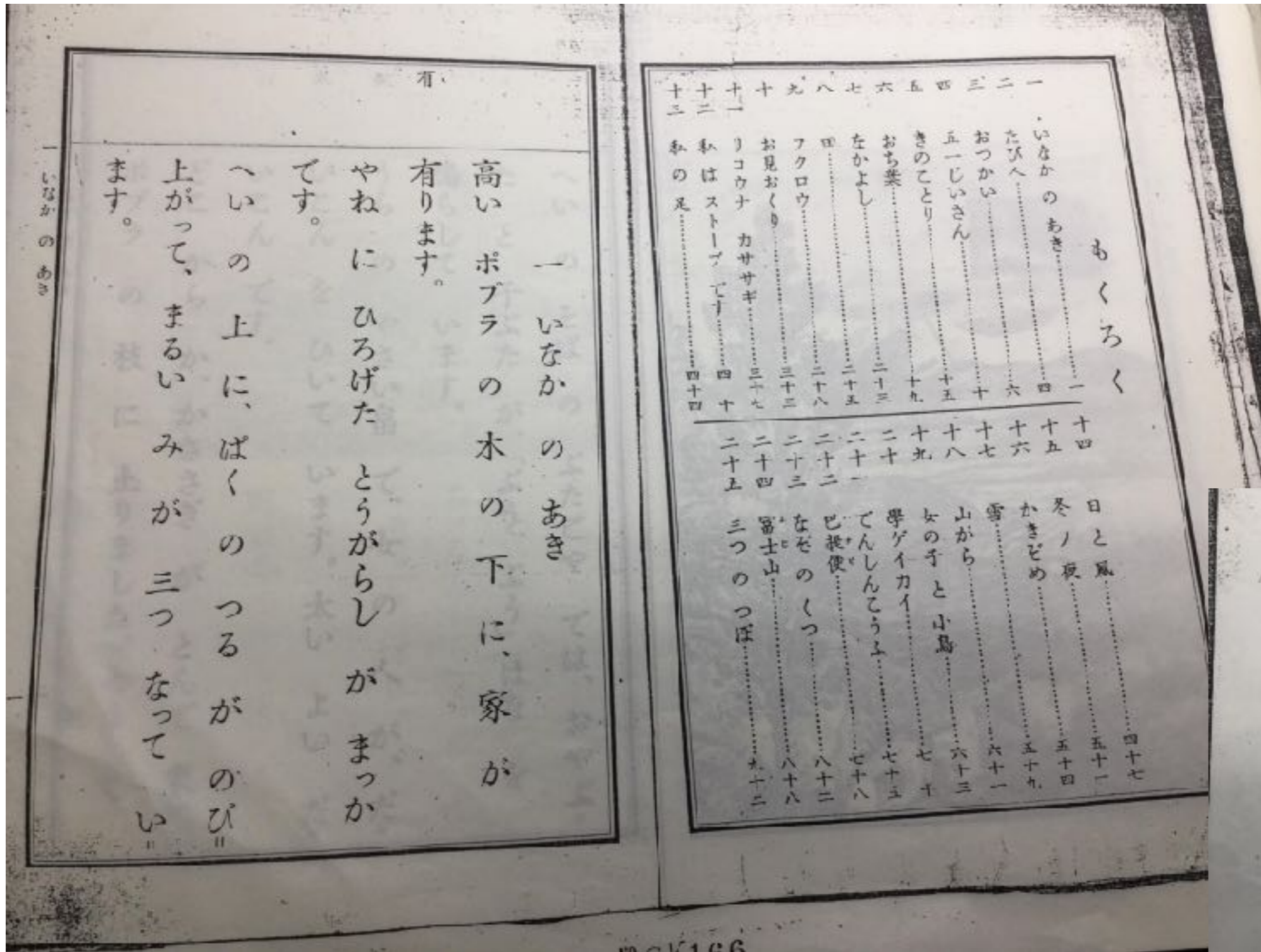
(1928年生まれ，1944年に満州国東安師道学校卒業，国民学校の教師を半年勤める，男性)

④私は今までに叩かれたという記憶がないんです。親も教師も私が接した人はいわゆる大正デモクラシーの息吹を浴びて成長した人ですから，子供を叩くということはしなかったんですね。私も，自分が叩かれたという記憶がなかったので，叩かなかった。ところが朝鮮の子供の学校へ行ったら，鞭がありましてね。ビシビシ叩くんです。びっくり仰天してこれはまねできませんでした。

(1923年生まれ，1941年に開城，1942年に京城で朝鮮人の国民学校教師 女性)

資料C

当時の教材から考える



昭和六年九月二十二日印刷
昭和六年九月二十五日印刷
昭和十二年八月二十五日改訂印刷
昭和十二年八月二十八日改訂印刷

著作権所有 著者兼 朝鮮總督府

發行所 朝鮮書籍印刷株式會社

代表者 井上主計

京城府大島町三十八番地
朝鮮書籍印刷株式會社

普通國語四七
定價金十二錢

活動2

「同化」か「交流」か？

日本語教育は、植民地同化政策の前衛だったのか、それとも、民族融和と交流の前衛だったのか？

Teamsに、3つの資料から当時の植民地で行われた教育をあなたはどうか考えるか？

まず、3つの資料を見ます。

その後、考えを「返信」のかたちでつなげていきましょう。

『半島の子ら』に登場する嶺先生



嶺先生は朝鮮半島の小学校の先生。子どもたちはすでに民族語での名前ではなく、日本名で呼ばれている。嶺先生は至れり尽くせりの熱心さで、細心の心配りで日本語を教え、朝鮮語を自ら使わせないようにさせていく。いや日本語という呼び方も否定される。それでは朝鮮語と日本語が対等のように聞こえるからだ。それでは「内鮮一体」にならない。

子どもたちは、よく生活の中で「トッケビ」をつかう。トッケビは朝鮮ではポピュラーなもので「鬼」でもあり「妖怪」でもあり「化け物」でもあり「魍魎」でもある。日本語にしにくいものだった。嶺先生は「神様」とするがどうにもお手上げ状態。

子どもたちの中には優等生で言うことを聞いてくれる子も多いが、反抗する子もいる。「トッケビはトッケビだ。神様じゃなくてトッケビだ」
政治的な意味合い以前の、母語を破壊・喪失することに対する抵抗を、三吉はする。

多くの子どもたちは「国語の使用＝善」「朝鮮語の使用＝悪」と捉えて三吉に反対する。しかし、嶺先生は葛藤する。「トッケビくらい朝鮮語でもいいんじゃないのか」。

——朝鮮語使用に対して一つの罪悪感を持たせた覚えはなかった。

——これでいいのか。こうあらねばならぬのか。割り切れない何ものかが渦巻いた。が、やがて嶺先生は決然と、「うん、これでいいのだ。これでいいのだ。子どもたちの論理は正しいのだ」と小さいが力強くつぶやいた。

「正義」と「ケア」

政策と教育の間で教師は何を考えるか？
ノディングスの「ケア理論」より

英語教師のジョンストンは、ある韓国人学生が明らかな剽窃行為をしたということに気づいたとき、ジレンマを持ったという。

「大学の規則にしたがって彼女を罰するか、それともアメリカで学問を修めるのに多大な手助けを必要とする留学生を指導しているのだということを見て見逃すか」

英語教師のピーターは苦悩しながら、母国が紛争下にあるパレスチナ人学生に対して「落第」にしたことを覆そうと決意した。

それは、その学生は落第してしまったら、イスラエルに戻らなくてはならなくなる。それはその学生にとって悲惨な結果と、留学を続けていれば存在するキャリアの向上の機会を、一生失わせてしまうことが目に見えていたから。

正義

公正，平等，組織の中での原則
や一貫した態度

政策に対する公的態度

ケア

信頼，配慮，ニーズへの対応
微妙なニュアンスへの気配り
思いやりのある態度

状況に対する私的態度



言語の教師は特に
この間で葛藤する



時にはケアの側面を重視する

時にはケアの側面を重視して
正義のありようを訴える

改めて

「同化」か「交流」か？

日本語教育は、植民地同化政策の前衛だったのか、
それとも、民族融和と交流の前衛だったのか？

正義

公正，平等，組織の中での原則
や一貫した態度

政策に対する公的態度

ケア

信頼，配慮，ニーズへの対応
微妙なニュアンスへの気配り
思いやりのある態度

状況に対する私的態度

言語の教師は特に
この間で葛藤する

時にはケアの側面を重視する

時にはケアの側面を重視して
正義のありようを訴える

Q1

「授業料」に出てきた先生の「やさしさ」はホンモノ
だろうか？

Q2

当時の先生は、自分たちが「植民地支配に協力する」
存在であることにどれだけ自覚的だったのだろうか

論点

政策と現場の間で
教師は何を捉え、どのように
実践を行うのだろうか？

論点争点の視点を「歴史」から探る

植民地における「日本語」の教育は、「1つの国家、1つの言語、1つの民族」という「国民国家像」の延長上の中で「同化政策」として行われてきた

「日本人」という共同体はどのように作られてきたのか？

植民地の時代、植民地は基本的に「同化」の政策がとられてきた。五族協和・八紘一宇などと言われたが、結果的には「日本人」枠の拡大だった。またその中で矛盾も生まれた。

「日本語の規範」はどのように作られてきたのか？

大東亜共栄圏の拡大の中で、日本語は中心言語となり、共同体感覚の醸成のために「日本語」は同化の道具となった。

「言語教育」はどのように関わってきたのか？

言語教育は「国語教育」（植民地内。満州では名目上は「日本語教育」と呼ばれた）として、植民地下の学校で教えられた。国語教育として、日本語教育が行われた。

時代に普遍的な
教師と政策との関係

一方、一部ではあるが良心的な教師の存在はどこの時代にもおり、教師は必ずしも「政策」の実行者という役割だけではなく、ケアの面から教育を捉えることもありうる

戦後の日本語教育は「国際交流」だったのか 「文化侵略」だったのか

1970年代後半 中国残留孤児とその子弟の引き揚げに関する国会議論

①（東京学芸大学附属大泉中学校は）政府関係の在外公館のの子弟とか、それから在外商社マンと申しましても、これは大体日本の大資本、大企業がバックにあると見ていいわけです。そうした子弟については、国はいち早く帰って来た場合にスムーズにその子弟が日本の各級に溶け込めるように特別の学級を作り、研究体制をとっている。

ところが、戦争の犠牲者である中国残留孤児、あるいはその人が子弟を連れて帰って来た場合にその子供の教育にカセットを一本渡す、これじゃあまりにもばかにしておるのじゃないですか…

（衆議院文教委員会 社会党議員）

②言葉ができぬということは大勢の中におりましても、まさに孤独な世界でございまして、まず言葉を習得していただく。もうこれしかございませぬ。そういうことではやはりこの問題は厚生省だけではできませんし、文部省とも十分連絡して、言葉を覚えてもらう。そして1日も早く日本の風俗習慣に溶け込んでいただく。もうこれしかないと思います。一番先にやることは。

（参議院社会労働委員会 厚生大臣）

「1日も早く日本の風俗習慣に溶け込んでいただく」ための日本語教育

活動3

戦後の日本語教育は「国際交流」だったのか 「文化侵略」だったのか

1980年代後半 好景気に伴う外国人の増加、留学（就学）生の増加に伴う国会議論

観光ビザ、観光目的という形で入り、そして不法在留し、不法就労しているというケースが多いというお話でしたけれども、最近それにプラスして見られるのが、就学とかあるいは研修、こういうものを在留目的として入国をし、そしていわゆる労働力として働いているケースもあるというふうにも聞いております。（参議院法務委員会 議員）

本当に日本語を勉強して積極的にわが国で学習に励もうという外国人に対しましては、これを積極的に受け入れて、今後とも質の高い学習の機会を作っていくことが必要であろうということが基本的な考えです（衆議院文教委員会 議員）

「望ましい外国人」には日本語教育を
「望ましくない外国人」は入国させない

歴史からみて、「言語教師のリスク」への名言

①グローバルに広がる言語教育には、その裏で実は大きな商業的政治的な利益があることを忘れてはならない (Phillipson, 2003)

②言語教育は、表面上は「必要に迫られて遂行されている教育」だとしても、その裏側には「その言語の布教」という目的がいつも隠されていることを忘れてはならない (Edge 2003)

③言語の教師の日々の教育実践に影響を与えている社会的政治的な側面に目を向けずに、自分たちを単なる「語学教師」として理解し続けるなら、それは「自分たち自身が社会を陳腐化させ、学習者を社会の周縁においやっていることに手を貸してしまっている」ことになるのを忘れてはならない (Gee, 1994: 190)

~~中間課題2 「中間課題1」で書いたレポートを再度見直してみましよう。~~

~~その上で、これまでの歴史で学んだ視点をもってレポートを再度眺めてみたときに、「付け加えたいくなったこと」「書き直してみたいくなったこと」「とくに書き直す必要はないが改めて大事だと思えるようになったこと」などを、続きの「3」をつくって書き加えましよう。(400字以内)~~